ポラリスを仰ぐ北の大地から

新米医師会長は奮闘中

渡島医師会　会長　小笠原　実

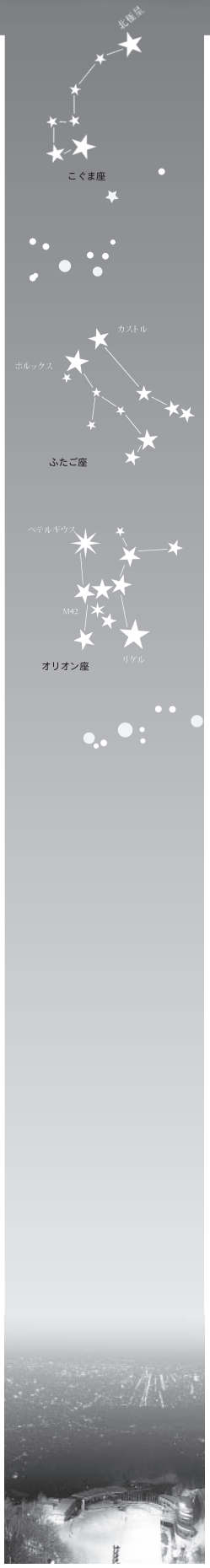
今年６月の定時総会で４期務めた副会長から会長に選出され歩き始めたばかりです。副会長の時はさほど思わなかったが、いざ会を取り仕切る立場になってみると何と大忙しな役職なのだろうと驚きつつ徐々に納得し始めている。

渡島医師会の会長は、同じく渡島学校保健会と南渡島地域リハビリテーション推進会議という２つの会の会長にも就任することになっている。いずれの会も会計年度は４月からで、総会は例年６月または７月に行っていたが、今年は当会の理由で１ヵ月ずつ遅れて開催されることになった。学校保健会の内容は今まで保健会の副会長でもあったので知っていたが、後者の推進会議についてはほとんど名前しか知らなかった。総会にあたり事務局の担当者にすべて教えてもらわなければならなかった。

この推進会議は道の「北海道地域リハビリテーション支援体制推進事業」をもとに、２次医療圏域ごとに置かれる「地域リハビリテーション広域支援センター」として平成14年に道から指定を受け活動してきている。平成24年度からは道の「医療連携推進事業」からも３年間の指定を受け、医療と介護の連携、地域包括ケアの構築に向けた活動を推進することになった。メンバーは医師会、歯科医師会、薬剤師会のほか保健所や医療機関など32団体で構成され、実際の運営は理学療法士や作業療法士などのメンバーを中心とした運営委員会で行われている。

総会では若手の彼らから今後の運営上での要望や事業計画についての質問など活発な意見交換がなされ、今後の私にとっても大きな刺激になる会議であった。

しかも、７月27日の通常組合会の帰途、大雨による影響で函館本線が登別で不通となり苫小牧駅付近で約６時間の足止めに遭ったが、それでももちろん道医の会議も欠かせない。



転換期を迎えて

北部桧山医師会　会長　本郷　友徳

平成20年４月に北部桧山医師会の会長に就任して間もなく５年半を迎えます。

これまでの歴代の会長先生は、この地域に根ざした歴史ある開業医の先生の方々で、今も理事として残り支えていただいている岩間崙前会長先生が16年間、その前は24年の長きにわたって会長を務められ本年５月に物故された富田守圀先生、古くは医師会の創成期から昭和の町村大合併後を含め20年にわたって務められた故 平進先生、お三方で実に60年間に及び、改めて歴代の会長先生の事績を噛み締めているところであります。

本会の歴史は、昭和23年４月１日に「瀬棚郡外二郡医師会」として設立、その名称のとおり、瀬棚郡(瀬棚町、東瀬棚村、今金町)、太櫓郡(太櫓村)、久遠郡(大成村)の三郡五町村でスタートしています。

昭和31年の町村大合併や平成の町村合併を経て、現在では二郡二町で構成していますが、せたな町が瀬棚郡から離れて久遠郡に、今金町はそのまま瀬棚郡に残るなど合併による珍現象が起きています。

私事では北海道南西沖地震のつめ跡が生々しく残る平成５年８月、当時の北檜山町(現せたな町)に赴任して20年、この４月からは第一線を離れ、ついのすみか探しなど新たなスタートのために充電中の身ですが、公益法人制度改革に伴う最後の詰めが残されています。

会員数17名、うち公立の医療機関の先生が11名、私設医療機関の先生が６名で、道内屈指(？)の小規模医師会のため法人格を維持するメリットが見えないのが現状です。

規模に見合った組織のあり方を考えると、任意団体への選択に向けて大きく舵を切ることも、この転換期に与えられた私の使命なのかもしれません。

振り返れば小なりとは言え歴史ある当会の存立基盤を結果として脆弱にしてしまう責任、心苦しさをしみじみ感じる今日このごろであります。